

10年後の白鷹町は...



みんなが楽しく住みよいまちにするために

子ども会議開催

12月10日、産業センターで、町内の小中学校、荒砥高校の代表21人が参加し「子ども会議」が行われました。

この会議は、次代を担う子どもたちが、話し合いを通じた交流を深めることで、『町』を見つめなおし、関心を高め、まちづくりに積極的に参画するきっかけづくりを目的として開催されました。

青少年育成町民会議（梅津晶一会長）と教育委員会の共催で、今回が第3弾となります。

会議の流れ

①自己紹介
顔写真入りの名刺を使い、参加者全員と交流。その後、各グループに分かれて、改めて自己アピールを行い、役割分担を決めます。

②会議本番

4つのグループに分かれ、「みんなが楽しく住みよいまちにするために」



まちにするために私たちが暮らす10年後の白鷹町」について話し合いました。
小学生は「学校以外の活動」について考え、中学生は「町の仕事」について考え各々に意見を出し合います。

③発表

各グループごと、チーム名・テーマを考え、発表を行いました。
※発表の内容などは次ページをご覧ください。

講評

○町長

どの班からも交流人口の拡大という提案をしていただいた。フラワー長井線の沿線市町では、それぞれ花を活用したまちづくりが行われている。白鷹町は紅花が各地で栽培されているので、長井線沿線に紅花を植栽すれば、花を活用した、町の身の丈に合ったテーマパークをつくることのできるかもしれない。

皆さんが考えていること、これを実現していくことが町に課せられた課題となるので、これからも皆さんの意見を大切にしながら、ひとつひとつ実現できるようにしていきたいと思う。

町の取り組み状況は、進み具合を見ながら皆さんにお知らせしていきたいと思う。

今回の子ども会議は大変有意義なものだったので、今後もちまちづくりに興味を持ち続けていただきたいと思います。